



NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.35

2020年10月23日
理事長：橋本成隆
〒665-0022
宝塚市野上1丁目1-8
(Tel: 0797-69-8800)
<https://rept.or.jp>

皆さん、一日の寒暖差が大きくなり日々秋の深まりを感じる日が続いておりますが、お元気にされてますでしょうか？先月に開催したオンライン勉強会ではオンラインと会場と合わせて40人の参加がありました。その勉強会の報告など最近のニュースをお送りします。

◆報告 オンライン勉強会「アフターコロナの新生活様式とエネルギーは？」

2020年9月12日に、コロナ禍で人が集まるのがままならない中、私たちの会もオンラインと会場という2元の新しい試みで勉強会を持ちました。

国際環境 NGO グリーンピースの鈴木かずえさんをオンラインでつなぎ、会場と参加希望者のそれ



ぞれの場所から考えるというやり方は、コロナがもたらした新しい様式と言えそう。鈴木さんはまず、今の気候危機の状況から述べ、猛暑日の増加、気候災害の激甚化、増える大雨の回数に触れ、これらも地球温暖化のせいで、台風のニュースの時にこの地球温暖化が関係しているともっと言うべきで、NHKに意見を言ったことがあると言っていた。「あなたの家が火事であるかのように行動して」というグレタさんの言葉を今一度噛みしめなければ。地球温暖化がもたらすこととして、食の生産量が減少、熱波、病気の多発という健康リスク、水をめぐる紛争リスク、経済リスクの増大が挙げられ、そこで「グリーンリカバリー」の提唱がなされた。「グリーンリカバリー」とはコロナ危機で停滞した社会を、地球温暖化を抑え、生態系を守りながら立て直そうという考え方。



方。EUでは農業の持続可能化、自然エネルギー、省エネ、電気自動車の販売や支援、公正な移行（これまで通りのビジネスに戻るのではない）という取り組み。韓国は選挙公約として「グリーンニューディール」を掲げ公共住宅のゼロエネルギー化、農業、漁業従事者への太陽光発電支援があるとの紹介があった。そこで日本は？ということで、東京脱炭素戦略（ゼロエミッション戦略）が提唱され、コロナ危機で気づいた大切なこと、働きすぎない、一極集中をやめる、循環型環境をめざすゴミゼロ社会などの提案、そして私たちはどんな社会にしたいか今一度考えようと締めくくった。

次に宝塚市の地域エネルギー課の古南課長から市のエネルギービジョンについての説明がリモートで行われた。宝塚市は目標値として2050年までに、家庭用の電気再エネ自給率を50%と掲げているが、現在のところはまだ4%である。グリーンピースの鈴木さんから質問があり、宝塚市がビジョンを作った経緯は？に対して、東日本大震災がきっかけで市長の思いとして自治体独自の取り組み

が始まった。市の中に「エネルギー」の名前がある課があることが珍しいことだが、いろいろ実現していくには難しさはある。しかし、宝塚すみれ発電のモデル事業や、西谷地区のバイオガス発電に向けた取り組みなど、様々な試みがなされているとの説明があった。オンラインで参加の方から、市長は何期目？という質問もあり（現在3期目）、自治体としての自然エネルギーの積極的な取り組みはやはり、他の市ではなかなかないことだと質問を聞きながら思った（私の住む川西市はそういう課はなく、特に独自の取り組みもない）。

第3部は宝塚すみれ発電の井上保子さんから「北摂里山地域循環共生圏」の取り組みや、ソーラーシェアリング市民農園のサツマイモを今年は芋焼酎に利用するなど、様々な試みが進行していることが紹介された。

1年前は予想もしなかった新型コロナウイルスの脅威。世界中を巻き込んだコロナ危機に私たちはどう向き合えばいいのか。経済への大打撃は計り知れず、こんな時こそ、政治家の手腕が問われるところだが、私たちの国はそれを期待できないことを見せつけられ、ため息が出るばかりだ。しかし、あきらめずに言っていかなければ。今回、鈴木さんの話を聞きながら、コロナ禍で人の移動が制限されることで、大気汚染の改善や、海や川がきれいになり野生動物が戻ってくるなど地球環境には好ましい変化があるというのを聞くと、これを機会に考え直していくことが必要ではと思った。講演の中で言われた言葉“build back better”。私たちはどんな社会にしたいか、多くの人が今一度思い巡らし生活を振り返ってみることが重要ではないか。（辰野純子）

続きまして、第3部に登壇頂いた宝塚すみれ発電の井上保子さんのコメントをご紹介します。

「グリーンピースジャパンとのコラボレーションで気候変動について議論したい、そんな提案をした。つまるところ、目に見える形、誰もが理解できないと気候変動による影響などわからないと思ったからだ。「どんな風に言えばみんなに伝わるか？」とこの日も聞かれた。だから、環境の話をする前に自分の家のごみ箱の中身を見ればよい、と答えた。自分が購入したものの最終の形がゴミになる。その量と中身を自分の目で確かめ、これがどのようになって行くかを想像しよう。台所は海につながっている、と言われて久しいが、これほどわかりやすい言葉はない。自分の行動に責任を持って、ということであろう。ものすごく難しい言葉で語ろうとするから、やらなくてはならないことがうまく伝わらないのではないか？案外落とし穴は「語る言葉」にあるのかもしれない、とまたもや思った。」（宝塚すみれ発電 井上保子）

また、参加された方々からは、「宝塚市でも石油・原子力依存の生活から自然エネルギー100%にしようとしておりますので我々市民もできることからやっていきたいと思いました」「グリーンリカバリーも必要ですがその前に自然破壊が進む事業を止めることが必要」「国や政府に頼らず、市民ができるグリーンリカバリー活動（農業や里山再生、間伐材によるバイオ燃料清算等）をすすめたい」「知っているつもりでも知らないことばかりで、今は集まりが難しいですが参加できてよかったです」「自然エネルギーの町に、コストが高くついても安心安全な町に、みどりゆたかな花いっぱい町に住みたい」というコメントを頂きました。皆さん、ありがとうございました

一方、勉強会の主催側としては、初めてのオンライン勉強会としては予定通り進行できたものの「もっとテーマを絞り深く掘り下げた内容が良かった」「現地のスクリーンが小さく見にくい、音響設備が不十分で聞き取りにくかった」との反省点もあり、次の勉強会に活かしていきますので、引き続きご参加、ご支援、ご協力をお願いします。（橋本成隆）

◆コープこうべとの共同企画～ソーラーシェアリング市民農園～

今年はソーラーシェアリング市民農園全体を見渡しても、さつまいもがきれいに育っている感じ
です。そろそろ収穫が始まり、なかには畑が土だけになっている区画も見受けられます。宝塚すみれ
発電とコープこうべの区画に関しては、10月31日に全部収穫するイベントを行います。それだけ
には終わりません。11月22日にはコープこうべ宝塚第一本部にて、ソーラーシェアリングにまつわ
る活動の報告会を行います。（組合員であればどなたでも参加可能だそうです）なぜソーラーシェア
リングでさつまいもを作っているのか、この行動がどこにどうつながって行くのか？それをみんな
で共有するための会となっています。環境省の地域循環共生圏事業の一環として展開していること
に始まり、食べものと電気、農業をうまく組み合わせることにより、こんなにも未来に夢が描けるの
だということを、宝塚すみれ発電はお話したいと思います。

コロナの影響で植え付けもツル返しも草引きもできなかった組合員の皆さんは、せめて収穫は、と
待ち望んでおられたのでしょうか。参加申し込みが多く、密集になるのを避けるために人数制限をかけ
なくてはいけなくて、逆にストレスがたまってしまいましたが今年は仕方ありません。新しくメンバー
になられた方がほとんどで、収穫イベントも報告会も楽しいものになるでしょう。今から大変楽しみ
です。報告会に関してのお報せは弊社ホームページにアップする予定です。

Zoomによる参加も有りですので詳細はしばらくお待ちください。（宝塚すみれ発電 井上保子）

◆宝塚市もやっと「気候非常事態宣言」へ向けて発進

「気候非常事態宣言」とは、国や自治体などの行政機関が、「宣言」を行うことにより、気候変
動に関する政策立案、計画、キャンペーンなどの対応を優先的にとろうとする態度表明のことで、オ
ーストラリアのデアビン市が2016年世界で最初に宣言し、翌年「気候変動非常事態プラン」におい
て気候変動への対応項目を決定しました。

その後世界では「宣言」を表明する国が30カ国以上、自治体が1700を超え、多くの国で気候変
動に対する危機感の共有と防止策や対応策の実施に拍車がかかっています。FFF（Fridays for Future:
グreta・トゥンベリさんの金曜ストライキに共鳴した若者の行動が発端となり、科学者や知識層の支
持を得て一般市民に広がった活動）も各地で「グローバル気候マーチ」など様々な取り組みをし、徐々
に大きなうねりを生み出しています。

ところが、日本での動きは鈍く、「宣言」を表明した自治体・機関はまだ数十に留まっているのが
現状です。そんな中、環境都市を標榜する宝塚市も気候変動に対応すべきと、《温暖化防止教育をひ
ろめる会》が市議会に「気候非常事態宣言」を発表することを求める「気候危機に対して宝塚市の適
切な対応を求める請願」を提出し、9月議会で審議の結果全員一致で採択されました。宝塚市の「宣
言」は環境政策課が策定することになっており、内容の充実と早期の表明が待たれるところです。

同時に、国への「気候危機・気候非常事態を前提とした地球温暖化防止対策のさらなる強化を求め
る意見書」が議員より提出され、可決されました。（10月6日国に提出）

化石賞受賞の常連である日本政府の姿勢は情けない限りですが、市民が生活を見直し、気候災害
防止や被害対策の当事者である地方自治体が主体的に社会を変えていかなくては… 自分たちが被
害者になるだけでなく、弱者により大きな被害を与える加害者にもなってしまう大量のエネルギー
を使ってきた私達には、まだまだやらなきゃいけないことがいっぱいです。

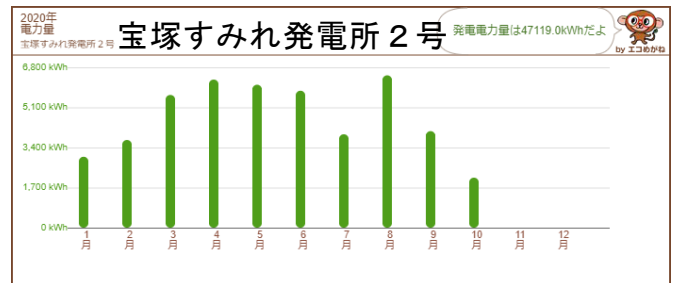
（宝塚市のHPで請願・意見書が読めます）

（田中章子）

◆発電グラフ（2020年10月21日時点）

9月の宝塚すみれ発電所6基すべてトラブルもなく順調に稼働しています。

今年の9月は夏の日差しも若干緩まり、台風などの影響もあって昨年よりも発電量は少ない結果となりました。（昨年比76%。過去の9月発電量比較では108%の結果です）（西田光彦）



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ

（<https://sumire.bona.jp/> 左記 QR コード）にアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。



お知らせ

●「じぶん発電所」の交流会グループ作成について

昨年度豊中市民エネルギーの会・宝塚すみれ発電に提供・指導頂いた「じぶん発電所」について、講師の方からの技術的な情報や、みなさんの活用状況などを共有する Facebook グループを立ち上げ予定です。はじまり次第、当会のホームページ・Facebook で案内します。